

生活援助従事者研修カリキュラム

研修科目	時間数	項目 () 内は項目数
1. 職務の理解	2 h	1. 多様なサービスの理解 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 (2)
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	6 h	1. 人権と尊厳を支える介護 (1) 人権と尊厳の保持 (2) I C F (3) Q O L (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 2. 自立に向けた支援 (1) 自立支援 (2) 介護予防 (2)
3. 介護の基本	4 h	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1) 介護環境の特徴の理解 (2) 介護の専門性 (3) 介護に関わる職種 2. 介護職の職業倫理 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 (3) 感染対策 4. 介護職の安全 (4)
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	3 h	1. 介護保険制度 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 2. 医療との連携とリハビリテーション 3. 障害福祉制度およびその他制度 (1) 障害福祉制度の理念 (2) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要 (3)
5. 介護におけるコミュニケーション技術	6 h	1. 介護におけるコミュニケーション (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 2. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 (3) コミュニケーションを促す環境 (2)

研修科目	時間数	項目 () 内は項目数
6. 老化と認知症の理解	9 h	1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 3. 認知症を取り巻く状況 4. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 5. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 6. 家族への支援 (6)
7. 障害の理解	3 h	1. 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念と I C F (2) 障害者福祉の基本理念 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 (2) 知的障害 (3) 精神障害 (4) その他の心身の機能障害 3. 家族の心理、かかわり支援の理解 (3)
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	24 h	【基本知識の学習】 1. 介護の基本的な考え方 2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 【生活支援技術の講義・演習】 4. 生活と家事 5. 快適な居住環境整備と介護 6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 7. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 8. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 9. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 【生活支援技術演習】 10. 介護課過程の基礎的理解 (10)
10. 振り返り	2 h	1. 振り返り 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 (2)
※【施設実習】	(2 h)	
11. 人権問題に関する理解	2 h	人権啓発に関する基礎知識
合計	61 h	(38)

※講義と演習を一体的に実施すること。

※【施設実習】

①「8 こころとからだのしくみの生活支援技術」においては、移動・移乗に関連した実習を2時間実施すること

②「1 職務の理解」及び「9 振り返り」において、施設の見学等の実習を活用するほか、効果的な研修を行うため必要があると考えられる場合には、他のカリキュラムにおいても施設の見学等の実習を活用することができること。

③実習の時間数については、1～10の各研修科目の合計時間の内数として差し支えない。

ただし、その際も各研修科目ごとに所定の時間数の1/2以上を確保すること。